

令和6年7月19日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

標 題

水稻生産コスト削減技術現地研修会を開催

～新技術と「コシヒカリ」に代わる品種の普及拡大へ～

(ダイジェスト)

宍道湖西岸の国営ほ場整備では、受益面積456haが整備される予定となっており、より効率的な作業が可能となるような技術の導入・拡大が急がれています。また、「コシヒカリ」の品質が大きく低下していることから、品種転換も求められています。そこで、これらの技術などの理解促進のために、現地研修会を開催しました。

出雲市の宍道湖西岸地区では、国営緊急農地再編整備事業が採択され、平成30年度から工事が開始されています。

ほ場が大区画化していくなかで、近年、水稻の生産コスト削減技術が徐々に出雲管内でも導入・拡大してきていますが、技術の波及は限定的な状況にあります。

また、R5年度の高湿による「コシヒカリ」の品質低下を受け、今年度から農事組合法人や新規就農者で新たな品種の試作栽培を開始していますが、現状「コシヒカリ」の栽培を続けている生産者が多くいます。

そのようななか、7月10日（水）にこれらの技術や品種の理解促進を図るため、農業部主催で水稻生産コスト削減技術現地研修会を開催しました。この研修会では、昨年から本格的に取り組みが開始された新たなコーティング資材を用いた湛水直播や、「コシヒカリ」の代替となり得る「つきあかり」「つや姫」、労力削減を目的とした流し込み施肥方法など、現状の取り組みを交えて紹介しました。

当日はあいにくの降雨となりましたが、関係機関含め23名の参加となり、湛水直播の播種機の現物などを見ることで、活発な意見交換がなされました。また、その他の情報提供として、近年問題となっているイネカメムシや特定外来生物のナガエツルノゲイトウの原体を参加者に見てもらうことで注意喚起も行いました。

今後は、今回紹介した技術を導入している生産者へのフォローをしていくとともに、興味を持った生産者への推進、技術支援を図っていきます。

